

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191400258		
法人名	医療法人大庚会		
事業所名	グループホームこん松濤(寿ユニット)		
所在地	北海道函館市宇賀浦町16-20		
自己評価作成日	令和 5年4月20日	評価結果市町村受理日	令和 5年 7月 19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0191400258-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103		
訪問調査日	令和5年5月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

◆より良いケアを実現する為に重要な事として、我々スタッフのチーム力が挙げられます。理念をスタッフ全員が共有し、その場面にあった応用が出来るように、チーム力の向上に力を入れています。様々な勤務形態の中、スタッフが多くの情報を共有し、同じものさしを持って、(臨機応変)にケア出来る様に心掛けています。利用者とのコミュニケーション同様、スタッフ間のコミュニケーションを大事にしています。またスタッフ全員が自己アセスメントを行い、みんなで共有しています。

◆下記のチームケア理念のもと、『今日』、『今』を大事に、出来ることは一緒に、出来ないことはさりげなくサポートし、チームワークで毎日楽しく暮らしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は国道278号線(通称「いさり火通り」)に面し、昭和年代には函館の中心街として栄えた函館駅前や大門に近い街中に位置している。また、津軽海峡の砂浜が目の前にあり、利用者と家族は海浜近くの居住地と重ね合わせて「ここが住処」と生活の場としている。職員は、利用者が過ごしてきた生活歴などの情報を集め、それぞれに合った言葉掛けとともに、否定や拒否することを控える事を心掛けながら自由に伸び伸びと過ごせるよう支援に取り組んでいる。コロナ禍の中で、リビングでの夏祭りや敬老会で職員による寸劇のプレゼントなどの企画を立てながら楽しい行事を実施している。また、携帯電話とタブレットを使用して、長い間合えなかった家族や遠方の家族とも面談を可能にし、耳の不具合を外付けのスピーカーで補完する工夫も加えながら面会の支援を行っている。職員不足の中、アルバイトに来ていた短大生が採用に繋がったりしている。また、法人は職員育成に努め、職員研修と資格取得を積極的に応援し、職員のレベルアップを支援している。管理者が母親より伝授されたごっこ汁やクジラ汁などの郷土料理を調理する等、家庭的な雰囲気を醸し出している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、運営理念、ケア理念、チームケアと3つの理念を掲げ、全スタッフが同じ理念でケアできるよう、定期的に理念に沿った支援ができています。振り返る時間を作っています。	地域状況や職員も様変わりした中、事業所として現在の「ケアとチームケア」の理念見直しの時期と捉え、周辺地域の交流等最も相応しい理念構築を考慮している。	事業所全職員が、介護の現状を見極めるとともに将来を見据えた、より良い新たな「理念」が構築できることを期待する。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍という事もあり地域との付き合いが希薄になってしまった。運営推進会議やイベントなどを通して、地域とのつながりを強化していきたいと考えています。	地域の町会に加入し、定時総会には利用者とともに参加している。また、地域包括支援センターが、隣接に「つどいの場」を建設し、週3回開設して地域住民との交流が企画されており、利用者と職員も交流できる場として期待している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症実践者研修を始め認知症の研修を重ねることで、スタッフの認知症への理解や支援についての理解が深まってきました。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍という事で外部からの訪問を制限していたため書面にて報告、ご家族には電話も併用し意見をいただいていた。	コロナ禍で書面会議を年6回開催しており、町会長、民生委員、利用者、家族などの委員へ会議議事録を送付し、意見や提案等をを得ている。また、電話での説明や意見等を聞くことにも取り組んでいる。今後は系列の法人が設置した隣接の「つどいの場」で会議が開催できることになっている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者へ制度の不明点や疑問について訪問または電話連絡などで密に連絡を取り確認するとともに、当事業所の方針、取り組み、現状報告などを伝えて、関係づくりに取り組んでいます。	市担当者とは事業所の実情やケアサービスの取り組み、運営についての相談やjyと言を得ている。事故報告はメール対応になっているが、軽易な件は電話で照会するなど、協力関係の継続に努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の外部研修や内部研修を行い、なぜ身体拘束が禁止されているのか、どのような行為が身体拘束に該当するのかを最低限理解しております。また、身体拘束のないケアを提供するにはどのようにしていけばいいのか、ミーティング等を通して、スタッフ間で話し合いの場を作っています。	身体拘束廃止委員会やカンファレンスの開催時に「何故、何が」について詳しく伝えている。特に、カンファレンスでは、利用者一人ひとりの対応が中心となっている、虐待などの外部研修会受講に際しては、内容について報告を行って職員間で共有に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関して職員全員が研修を受けております。自分の事業所は大丈夫だという認識は持たず、常にアンテナを張り、小さなうちに解決、軽減できるよう取り組んでおります。また、疑問や不安を気兼ねなく話し合える職場環境を目指し、概ねできつつあります。			

グループホームこん松濤(寿ユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修や勉強会に参加する機会が少ないのが現状です。今後管理者だけでなく、職員も権利擁護の知識を身につけて活用できるようにしていきたいと考えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の変更、解約等については、十分な説明と同意を得ることはもちろん、疑問・不安についても十分な聞き取りを行い、親切・丁寧の説明することを心掛けております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、担当者会議、面談・電話等での苦情処理等により、利用者または利用者の家族から事業運営の意見や要望を頂き、よりよいケアを目指しています。	利用者の日常の暮らし振りを細部に至るまで、把握に努めている。把握した情報を基に家族へは毎月担当職員より手紙と写真の送付で暮らしを報告し、意見や要望が出やすい環境づくりに取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス、個人面談などで、職員の意見や話し合いの場を設け、業務に活かしております。また、業務中における疑問や意見においても、時間をおかずその場で話し合える職場環境ができています。	管理者は日頃から話しやすい雰囲気作りに努めるとともに、日常業務やスタッフ会議で話を聴くように努めている。年末に実施するユニットリーダーとの面談や2か月に1回の個人面談でも提案を聞き運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員間で得手・不得手はありますが、個々の職員の能力に合わせて評価してもらっています。コミュニケーションを密にし、働きやすい職場環境ができていますので、向上心を持って働ける環境ができています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修、勉強会については、誰でも参加できるように勤務体制を調整するとともに、参加に偏りが無いよう配慮がなされています。個々の職員に必要と思われる研修については、優先して参加できるよう支援しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍になり外部研修への参加が極端に減り、同法人以外の同業者との交流が減った。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントから、必要最低限の情報は理解するとともに、入居時はご本人の緊張や環境変化により不安や心配が増大するため、積極的に係わりながら不安を軽減できるような支援に努めています。		

グループホームこん松濤(寿ユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前に、事前面談を行うことで、本人・家族からのアセスメントを行うとともに、入居時の希望や、要望、不安なことなどを伺い丁寧に説明させていただいております。入居後の疑問・要望等についても親切・丁寧な対応を心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントと家族からの聞き取りなどによって、暫定プランを作成し説明と同意を受け支援を行っております。開始後変更が必要なものについては随時訂正、見直し、変更を行っている状況です。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事など職員と一緒にいることを心掛けて、できることは自分で行って頂くよう心がけております。しかし、日常の関わり方、声掛けの方法など、まだまだ工夫が足りない部分もあり目指すべき姿の実現に向け努力している状況です。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へ特変時等連絡ほか、一カ月に一度は手紙と写真を渡しホームでの様子を伝えていきます。スタッフの連携ミスにより家族連絡が出来ていなかった事もあるので確実に家族連絡をするように周知しました。担当者会議等でご家族の係わりの重要性を説明させて頂き関係が途切れないように働きかけを行っています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍という事で面会に制限がかかってしまいドア越し面会、テレビ電話面会などでご家族・知人との交流を続けていました。	コロナ禍のため外部との面会は自粛しているが、近隣の友人や知人の訪問では、ドア越しや携帯電話を使用して面談を行っている。また、職員の見守りで利用者が家族宛に自筆するなど、関係継続の支援へ繋げている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の性格、認知症の程度、状態変動等を把握し、職員が仲介しながらできるだけ一緒に過ごせるように支援しています。一緒に生活する時間を重ねることで、互いに困難な部分を支援し合う場面が多くなりつつあります。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	実際の事例はありませんが、例えば契約が終了したとしても、必要に応じて本人・家族の相談や支援をしていきたいと考えております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活習慣や個々の思い・意向など、様々な情報を収集し、その方ほどのような生活を望んでいるのか、どのような支援が必要かということ等を常に頭に思い描きながら支援しています。	日常の行動、会話、表情などの変化については、申し送り書に記載して、何時でも読む事が出来る体制を作り、共有を図っている。外出志向の利用者には、付近の人通りを見て散歩を実施している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを行い、本人・家族・ケアマネジャーからの基本的な情報を集めるとともに、ご本人との会話からも情報を収集し、ご本人の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態、年齢などを考慮し、本人の一人ひとり個々の生活習慣、過ごし方を把握するよう心がけております。日ごろの観察から、細かな変化に気をつけて支援しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に担当者会議を開催し、ご本人、家族、担当職員、訪問看護等と話し合う場を設けております。その中でご本人が必要とする支援を見出し、ケアプランを作成しております。	利用者の意向や身体状況・家族の要望をもとに、職員の意見を取り入れ介護計画を作成し、支援を行っている。また、利用者の状態を的確に把握して、その変化に即した適切な介護計画に見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の行動、会話、表情、状態変化等記録に残すようにし、スタッフが出勤時に閲覧することで情報共有できています。担当スタッフが情報を集約するとともに、モニタリングにて介護計画の見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態の変化等に合わせて、今必要なニーズは何か、本人の生活の質を向上するためには何が必要かということを念頭に、随時ケアプランを見直しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域とのかかわりが重要という認識を持ち、積極的に地域の資源を活用するようにしていきたいと思っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診については、在宅の時のかかりつけ医を継続できるよう支援しております。また、かかりつけ医にも、生活の様子を情報提供し、継続して生活できるよう支援しております。	利用者と家族が慣れ親しんだ希望するかかりつけ医への受診を支援している。訪問看護師が毎週健康チェックにあたり、体調の急変にも24時間連絡が取れるなど、何時でも適切な医療支援を受ける体制が整っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護へ最近の心身状態、精神状態、その他細かな情報を報告するとともに、一週に一度の健康診断もできています。緊急時等は、訪問看護へ連絡し、対応指示を受け適切に対応しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と連絡を密にし、情報を提供することはもちろん、入院中の状態を確認しながら、できるだけ早く退院できるよう働きかけを行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事例はありませんが、契約時に重度化や終末期の場合の対応に関する指針として、事業所の支援のあり方、医療との連携などチームで関わって行くことについて説明、同意を頂いております。	重度化や終末期医療と介護支援については、契約時に指針を書面で示し、事業所の出来ることを説明して理解を得ている。終活の棲家として求める利用者もあり、これを職員と共有して今後の対応に繋げるよう取り組んでいる。	重度化と終末期支援については、急な変化もあることから、マニュアルに沿った行動を確認して、実際に遭遇した場合の対応を全職員で研修を行い、レベルアップに取り組んで共有できるように期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応について、研修を行うとともに、定期的にマニュアルの再確認、整備、見直しをしています。急変時のイメージトレーニングをすることで、初期対応のほか、職員間の連携や連絡体制の徹底を心掛けています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルの整備や、フローチャートについてカンファレンスで話し合いをしております。	コロナ禍のため消防職員の立ち合いなどを控えて、昼と夜間の避難と通報訓練を実施している。現在は地震・津波等の自然災害対策についても、消防署や市の対応窓口と協議するほか、法人関連介護施設と連携してマニュアルの見直しに取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一律で同じ声掛けや対応するのではなく、その方の生活歴、性格などを把握し、その方に合わせた声掛けや対応を心掛けています。	言葉掛けは、利用者の生活歴や個性を尊重して関わっており、同じ目線に立ちプライドを損ねないケアを心がけている。個人情報の取り扱い、プライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人の希望や自己決定を最優先できるように働きかけております。自己決定が難しい場合であっても、選択肢を絞ることで、自己決定できるようにするなど工夫しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切にするよう心がけています。廃用症候群の懸念もあるため、できるだけ日中活動できるよう関わり方や支援方法を検討しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみについては、ご家族からも好みなどの情報を頂き、自己決定に配慮しながら支援している状況です。		

グループホームこん松濤(寿ユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力に合わせて、買い物支援、皮むきなどの下準備、炒め、味付けなど一緒に 行っております。また、片付けも食器洗いだけに 限らず、テーブル拭きや下膳等分担し行っており ます。	系列の管理栄養士が献立を作成しているが、 その日の利用者の希望や冷蔵庫の保管状況 を見て献立を変更している。利用者とは、下処 理、調理、配膳など出来ることを共同で行い、 毎月行事食や季節食を取り入れる等、楽しむ る支援をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応 じた支援をしている	栄養バランスはもちろん、水分も確保できるよ う支援しております。定期的に体重測定するこ とで、栄養過多や栄養失調が継続しないよう、情 報共有し支援しております。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケア をしている	その方の習慣に合わせて、口腔ケア、機能向上 の支援をしたり、声掛けの促しを行っています。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの 力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの 排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの失敗が多くてもすぐにオムツ(リハビリ パンツ)などを使うことなく、排泄パターンを把握 しトイレで排泄できるよう情報を共有し支援を 行っています。	排泄パターンや仕草・素振りに注意して自立し たトイレ排泄に繋がるよう支援している。介護 度に差をつけず、出来るだけトイレ排泄ができ るように自立に向けて支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫 や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り 組んでいる	排泄自立の方も多く、排便の確認が難しい状況 にあるのが現状です。便秘訴え時の牛乳やヨー グルトなどの提供のほか、運動への働きかけは できています。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽 しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めて しまわずに、個々にそった支援をしている	入浴については、曜日、日程、時間は特に定め ず、等間隔で入浴の支援を行っています。入浴 の希望のある方についても、その都度対応でき ています。	週2回の入浴を目指し、午前から夕方まで声か けを行い、入れるタイミングで支援している。一 つのユニットに入浴リフトを設置したため、利用 者が湯舟への出入りが容易になり、喜ばれて いる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じ て、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援 している	昼夜逆転や、廃用症候群にならない程度に、ご 本人のその日の状態等に合わせて休息する時 間を作っております。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用 法や用量について理解しており、服薬の支援と症状 の変化の確認に努めている	薬の用法・用量は把握しておりますが、薬の目 的や副作用まで理解しているとはいえない状況 です。これからの課題ではありますが、日ごろ の観察から症状の変化の確認に努めておりま す。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人 ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽し みごと、気分転換等の支援をしている	本人ごとの楽しみごと、できること、喜びごとを 本人の生活歴や本人との会話から見出し、イベ ントなどに組み込んで支援しています。			

グループホームこん松濤(寿ユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けなような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、頻繁に外出することはできませんでしたが、ドライブなどで花見、紅葉を楽しんでもらひ四季を感じてもらえるよう支援した。	コロナ禍におい頻繁に外出支援について自粛しているが、、車で外出して春の花見と秋の紅葉を楽しみ、車窓越しに季節に触れたり、利用者の意向に沿うよう直ぐ近くの海浜や道路の散歩で支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の金銭管理能力について家族と相談しながら、必要に応じてお金を所持しています。実際にはきちんとした金銭管理は難しい方がほとんどというのが現状です。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族・知人からの電話にはなるべく出られるよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快なものや刺激物には注意してレイアウトしておりますが、温度については個人差があり衣類などで調整している状況です。季節ごとのイベント開催や、館内のレイアウトなどもその季節を感じられるよう工夫しています。	共有空間は、室温、照度、音にも注意して過ごし易い環境を整えている。特に季節を感じる室内装飾に心掛けている。清掃は、利用者の出来ることを職員と協力して行い、清潔で過ごしやすい場づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室、リビング、和室と用意されています。座れるところも多数あり、共同で過ごしながらも、一人になれたり、居室で過ごされたりと、プライベートの空間が整っています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	住み慣れた居住で使っていたものについては、なるべく継続して使用できるよう、趣旨を説明し、家族と相談のうえ、持参していただいている状況にあります。	室内には、タンス、仏壇、位牌などのほか、家族写真や遺影など身近に慣れ親しんだ好みのものが持ち込まれ、落ち着ける場所になっている。室内清掃やシーツ交換はできる利用者と共同して行い、過ごしやすい環境づくりに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビング、居室、その他の空間にあるリスク要因をできるだけ取り除き、自立できる支援を提供できていると思います。状態によって、リスク要因も変化するため、話し合いながら常に検討、見直しをしています。		